学校と公民館から広がる新しい地域の輪

～地元の小・中学校との連携を通して～

蒲郡市府相公民館　主事　岡田健一

１　蒲郡市の公民館

・市内１１館
・学校と連携した取り組み
・府相公民館
・竹島小学校の敷地内へ移転新築（Ｒ２・３月）

２　今なぜ学校との連携が必要か

・地域学校協働活動（推進員・協働本部・コミュニティ・スクール）
・学校を核とした地域づくり
・地域とともにある学校づくり

３　活動を進めるにあたって

・学校との話し合いの場の設定
・定期的に実施（月に１度、１時間）、場所は公民館の交流プラザ
・参加者…公民館側（主事・館長）、学校側（教頭）
　　生涯学習課（推進員・支援員・統括コーディネーター）

４　具体的な取り組み

（１）児童・生徒の作品の掲示
・Ｒ３年度より実施
・定期的に作品掲示

（２）放課後子ども教室
・Ｒ４年度より実施
・ポスター教室、モルック、人形劇、英語でクリスマス等様々な教室を実施
・放課後子ども教室の支援員が企画

（３）みんな集まれハッピー畑
・Ｒ５年度より実施
・学校の敷地内の畑を活用
・１５名程度のボランティアの方が作業
・毎週水曜日午前中に活動、交流プラザで話し合い

（４）昔遊び体験竹筒の水鉄砲で遊ぼう
・放課後子ども教室のポスター教室に代わって本年度より実施
・ハッピー畑で作った野菜でカレーライス
・ハッピー畑のボランティアの方の手伝い

（５）公民館施設の活用
・てるてる広場（幕張スペース）で児童の学習発表（音楽の披露）
・和室でお茶の授業
・長期休業中に会議室の開放等

（６）府相公民館看板づくり
・公民館と学校の連携構築補助事業（Ｒ３～４年度）
・蒲郡中学校の生徒のデザイン

（７）その他
・公民館クラブサークルの方が学校支援ボランティア
・公民館を学習の題材に

（８）活動を市民の皆さんに伝えるために
・公民館だよりに協働活動のスペースを設ける。
・地域の方に毎月発行

５　まとめと今後の課題

〇来館者の数が増えると共に、幅広い層の世代の方が公民館を訪れるようになった。
〇公民館利用者の生きがいや、やりがいを高めることができた。
〇子どもたちや教師が公民館活動に関心を示すようになった。
〇子どもたちと公民館利用者の間に世代を超えた連帯感が生まれた。
▲担当者が替わると連携が難しい面がある。今後もこの活動が継続的にできるような工夫が必要である。

学校と公民館から広がる新しい地域の輪

蒲郡市府相公民館（愛知県）



①地域の方が子供たちと一緒に苗付け



②中学生が公民館の看板を制作

公民館の沿革・年表

昭和25年4月　府相公会堂（木造平屋建）を公民館に改造し、発足した。
昭和39年12月　竹島遊園地内に公民館を新築し、昭和40年1月より開館した。
昭和42年11月　全国優良公民館として文部大臣賞を受賞。
昭和51年より　蒲郡市南部市民センターを併置した。
令和2年3月　蒲郡市南部市民センターを廃止。
令和2年4月　竹島小学校内に移転新築。

左図・写真の説明

①「ハッピー畑」
公民館と小学校の間にある畑を、子どもたちが「ハッピー畑」と名付け、地域の方と一緒に作物を育てている。

②「中学生による公民館看板制作」
公民館新築に伴い、地域の交流拠点となるシンボルとして、新しい公民館の看板を地域の子どもたちに手作りしてほしいという公民館の希望があった。学区中学校の美術部と連携し、中学生の思いが込められた看板が取り付けられた。

公民館情報				
	1．公民館対象人口	3,815人	4．利用可能時間	9：00～21：00
	2．建物設置年月日	昭和25年10月1日	5．来館者のインターネット接続環境	無線ＬＡＮ（Wi-Fi等）
	3．開館日数	285日（令和6年度）	6．来館者のインターネット接続最大端末数	128台

7．運営主体	☐ 市町村教育委員会	☑ 指定管理者（蒲郡市府相公民館管理運営委員会）	☐ その他（　　）	
8．来館者数	☑ 学級・講座 447人	☑ 貸館、サークル活動 17,119人	☐ 講演会、展示会等　人	合計 24,637人
	☑ その他 7,071人（会議・イベント等）			
9．職員数	☐ 専任　人	☐ 兼任　人	☑ 非常勤 4人	☑ ボランティア協力者　人
	（職員のうち社会教育士の数　人　職員のうち社会教育主事有資格者の数　人）			合計 4人
10．予算	☑ 市区町村予算	☑ 委託金	☑ 自治組織等予算	☐ 寄附等 ☐ その他（　　）
11．公民館運営審議会	☑ あり	☐ なし	☐ その他（　　）	
12．公民館が実施している、若しくは、関わっている取組・事業の分類	☑ 地域防災・減災	☐ デジタル・ディバイドの解消	☑ 家庭教育支援	☑ 体験活動
	☑ 地域学校協働活動	☐ 障害者の学び支援	☐ 日本語教育の推進	☐ 義務教育未修了者への支援
	☐ 伝統文化継承活動	☑ 世代間交流活動	☑ こども・若者の居場所づくり	☐ 子育て支援
	☐ ボランティア養成	☑ 地域資源を活用したまちづくり	☑ コミュニティ・スクール	☐ 社会人の学び直し
	☐ その他（　　）			
13．施設の特徴、魅力	☐ 複合施設	☐ 図書館	☐ 学校	☐ 生涯学習センター
		☐ その他（　　）		
	☑ 自由記述（学校の施設内に併設、学校の特別教室を共用）			
14．各種事業等で連携・協働している団体等（団体名記述）	☐ 幼稚園・保育所	☑ 小中学校	☐ 高校	☐ 大学
	☐ 企業	☐ NPO	☐ 各種団体	☑ 行政機関
	☐ 図書館	☐ 博物館	☐ 青少年教育施設	☑ その他
	府相地区総代会、社会福祉協議会			

蒲郡市府相公民館

OPEN　9:00～21:00　　H P　https://www.city.gamagori.lg.jp/site/husoukouminkan/
ＴＥＬ　0533-68-2705　　SNS

1．取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

・近年のライフスタイルの変化により、子ども会や老人クラブ等の地域活動が減少しつつあり、市内でも地域コミュニティの希薄化が進んでいる。
・公民館移転を機に、学校施設内に新公民館を建築することで、「学校を核とした地域づくり」を公民館を中心にモデル的に進めることとなった。その立地の強みを生かし、様々な活動が行われ、地域住民が交流する場が提供されている。

2．取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動など）

【みんな集まれ！ハッピー畑（地域学校協働活動）】
公民館の移設に伴い生まれた学校のスペースを、公民館の利用者である地域住民が借りて畑にし、作物を作り始めた。そこから少しずつ地域住民と学校との交流が始まり、授業で地域の方が子どもたちに苗の植え方を教えたり、できた作物を一緒に収穫するようになった。小学校では、子どもたちがお世話になった地域の方を招待して、ハッピー畑で収穫した野菜を使った料理をふるまうパーティーを開いてくれている。ハッピー畑は毎週水曜日の午前中に自由参加で活動しており、気軽に参加できる場として地域住民同士のつながりややりがいを創出している。


ハッピー畑で大根の種まき

【公民館ポスター教室（放課後子ども教室）】
公民館が放課後子ども教室として「夏休みポスター教室」を主催している。学区の美術部の中学生や地域住民を講師に招き、様々な年代が集まってにぎやかに開催されている。地域住民が家庭科室で作ってくれるお昼ご飯のカレーライスには、ハッピー畑で採れたじゃがいもを使用し、参加者みんなで一緒においしく食べた。中学生も積極的に参加してくれており、公民館と小学校を中心として、地域住民の多世代交流の場が生まれている。その他の放課後子ども教室も公民館施設を使用して行われている。


ポスター教室

3．取組において公民館が果たした役割、運営の工夫など

【みんな集まれ！ハッピー畑（地域学校協働活動）】
ハッピー畑に来てくれている地域住民は、公民館長をはじめ、公民館をよく利用する地域住民に声をかけて集まった。公民館を拠点として活動しており、畑作業の合間には公民館で休憩したり参加者で談笑する場を提供している。「できる人ができるときに」を体現し、気軽に集まれる雰囲気づくりをしている。
【公民館ポスター教室（放課後こども教室）】
企画・宣伝と、地域住民や地域学校協働活動推進員を通じた中学生との調整を行った。普段から公民館の事業に対する中学生ボランティアを募っており、中学生が気軽に参加してくれるようになった。


公民館まつり　中学生ボランティア

4．取組による成果や効果

「ハッピー畑」では地域住民が生き生きと活動しており、子どもたちも積極的に地域の方と関わるようになった。学校も授業で公民館を活用することが増え、子どもと地域住民で地域防災について考える授業も行った。
「中学生ボランティア」を放課後子ども教室や公民館まつりで募集し参加してもらうようになってから、中学生の地域とのかかわりに対する意識の向上が見られ、中学校では有志で「ボランティアサークル」が発足した。

5．取組の検証・改善を行う仕組み・方法

●自治会関係者、地区の学校長、保育園長、公民館利用団体代表者等で構成する公民館運営審議会を年間2回開催。
●地域学校協働活動について、学区の学校運営協議会に公民館長が委員として参加、学区の教育方針や目標を共有しつつ、公民館事業にも落とし込んでいる。


蒲郡中学区学校運営協議会

6．これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど

既存の地域団体やコミュニティを支援しつつ、小中学校も巻き込んだ新たな形での地域コミュニティの形成のため、公民館が交流拠点となるべく事業やイベントを企画していきたい。地域住民同士の顔がつながり、自助・共助の意識の広まりや地域課題の解決に向けた取り組みが、公民館を中心に行われるとよい。


地域と子どもが一緒に防災を学ぶ